

目的

本研究所は、本学の生命科学・生活科学を研究テーマとする学内教員を組織し、人が生涯を通じて健康で心豊かな生活を過ごすための研究・開発と、安全・安心な社会環境構築のためのイノベーション創出を目指して、2016年4月に設置されました。

少子高齢化社会における社会的諸問題に対応して、「こころ」と「からだ」の両側面から、

- ① 健やかで活力と意欲ある子ども達の育成
- ② 一生を通じたQOLの向上と健康寿命の延長
- ③ ポジティブエイジングを目指した健康長寿の実現

を目標に、基礎から応用までの研究・開発を推進します。

お茶の水女子大学

ヒューマンライフイノベーション研究所

Institute for Human Life
Innovation



正門と銀杏並木 / お茶の水女子大学

C. Yanaka

健やかで活力ある人生を作る「こころ」と
「からだ」の健康イノベーション創出
— ヒューマンライフイノベーション研究所
による研究と開発 —

組織と研究内容

ヒューマンライフイノベーション研究所には、「生命科学部門」、「食物栄養部門」を設け、以下のキーワードを中心に研究を推進します。

○子ども達を元気に

健やかで活力と意欲ある子ども達の育成

我が国の将来を支える子ども達がより元気に成長するために、心身の健全な発達のための栄養摂取と食習慣、健やかな身体発達を促す運動法と豊かな心を養うための芸術活動の開発、効果的な実践のための研究を行います。

○活力ある暮らし

QOLの向上と健康寿命の延長

一生を通じてストレスや疾患に負けない「こころ」と「からだ」を作るため、ストレス性疾患、メタボリックシンドロームの予防や改善のための研究・開発、思春期から子育て世代までの低栄養の健康への影響を遺伝子レベルで解明するための研究を行い、様々な世代に向けた教育プログラムをつくります。

○高齢者を元気に

ポジティブエイジングを目指して健康長寿を実現

ロコモティブシンドロームや神経変性疾患の改善や治療に結びつく研究と開発、高齢者のための食や運動に関する研究を推進し、高齢者自身による自己管理能力の増進を図るための研究・開発と実践を行います。

○応用・開発

企業や他機関との連携による医薬品等の開発研究

企業等との連携により、「変形性関節症治療薬の開発」、「パーキンソン病やアルツハイマー病等の神経変性疾患治療薬の開発に向けた研究」、「健康に資する食材や添加物の開発」など、生涯を通じて健康で心豊かな生活を過ごすための研究・開発を目指します。

研究成果の波及効果

- 生命現象の基本的理解、新たな調節方法の創出や生命活動の理解の進展(学術的效果)
- ストレス、生活習慣病や老化に伴う疾患の克服方策に関する研究開発による健康長寿の推進。子どもの健やかな成育、人々の生活の質の向上、高齢者の活力ある生活スタイルの実現(社会的効果)

ヒューマンライフイノベーション研究所 構成メンバー

所長：教授 小林哲幸 (脂質生化学)

教員：准教授 宮本泰則 (神経生物学)
特任准教授

後藤真里 (脂質生化学)

石川朋子 (栄養化学)

研究員：

教授 藤原葉子 (栄養化学)

教授 加藤美砂子 (植物生理学)

教授 相川京子 (糖鎖生物学)

准教授 棚谷 綾 (創薬化学)

准教授 飯田薫子 (生活習慣病学)

講師 市 育代 (脂質栄養学)



ヒューマンライフイノベーション研究所の取り組み

生涯の健康づくり

QOLの向上と健康寿命の延長

【研究テーマ例】

- ① ストレス性疾患の予防と改善
- ② 肥満とメタボリックシンドロームの発症メカニズムの解明
- ③ 食習慣の管理と改善
- ④ 思春期から子育て世代までの低栄養の影響と教育の徹底

子供たちを元気に

健やかで活力と意欲ある

子供たちの育成

- 【研究テーマ例】
- ① 子どもたちの心身の健全な発達のための栄養摂取と食習慣
 - ② 健やかな身体発達を促す運動法と豊かな心を養うための芸術活動の開発と効果的な実践

ポジティブエイジングを目指して

健康長寿を実現

- 【研究テーマ例】
- ① ロコモティブシンドロームの予防と改善
 - ② 神経変性疾患の予防と改善
 - ③ 高齢者に適した栄養摂取や運動法に関する研究・開発と実践
 - ④ 高齢者の社会における活躍促進

高齢者を元気に

企業や他研究機関との連携による医薬品等の開発